

# 南丹市地域創生戦略

【第2期】

中間案

令和2年3月

南 丹 市

# 目次

1. 戦略の策定趣旨	1
2. 戦略の期間	2
3. 戦略の位置づけ	2
4. 戦略の構造	3
5. 戦略の評価・検証	3
6. 市民ニーズの捕捉	4
■基本目標1 しごとをつくり、そこで働くひとを呼び込む	5
(1) 南丹市の特色を活かしたしごとづくりと企業誘致	5
(2) 地域産業の担い手となるひと集めと起業支援	6
■基本目標2 南丹市への新しい人の流れをつくる	7
(1) 定住・移住促進に向けた取り組み	7
(2) ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興	8
■基本目標3 結婚・妊娠・出産・子育てに希望を持てる地域をつくる	9
(1) 結婚・妊娠・出産・子育てを後押しする支援	9
(2) 地域愛を育てる教育の推進	10
■基本目標4 誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる	11
(1) 次代に繋ぐ誰もが住みやすい地域づくり	11
(2) 住み続けたい安心・安全な地域づくり	12
(3) とともに歩む協働・連携の取り組み	13
【参考】関係用語集	13

# 1. 戦略の策定趣旨

(これまでの地方創生の取り組み)

平成27年度から平成31年度までの5年間を計画期間とする第1期南丹市地域創生戦略(以下、創生戦略という。)では、①しごとをつくり、そこで働くひとを呼び込む、②南丹市への新しい人の流れをつくる、③結婚・妊娠・出産・子育てに希望を持てる地域をつくる、④誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる、という4つの基本目標と、それを実現するための手段である施策を戦略的に構築し、地域創生の取り組みを推進してきました。

4つの基本目標における数値目標の4年間の総括では、全体的に、概ね達成が図れましたが、数値のみから推測される課題として、「企業誘致のみに頼った仕事・雇用の創出では、十分な雇用・仕事の創出が生まれなかったこと」「転入者の増加は達成できたが、今住んでおられる市民の転出に歯止めがかけられなかったこと」「婚姻数、出生数は、十分な成果が生まれせず、婚姻数について課題を残していること」「全体的に南丹市を安心して住みやすいと感じる市民の割合は、達成できたが、総体的に見て人口減少に歯止めがかかっていないこと」があり、次の創生戦略の施策として盛り込んでいく必要があります。

(次期創生戦略の基本的な考え方)

人口減少の原因たる都市部への人口流出や長期的な少子化傾向、人口構造の高齢化に伴う死亡者数の増加などへの対応策として、第1期の創生戦略の方向性に新たな要素を加え、「第2期南丹市地域創生戦略」を策定し、令和2年度から令和6年度の5年間、南丹市を創生するための施策を総合的に進めることとします。

将来の人口減少社会における南丹市の姿を見据えて、市民一人ひとりが生きがいをもって笑顔で暮らせる未来に輝くまちをデザインし、これまで進めてきた政策を土台として南丹市を創生するため、「南丹市地域創生戦略」を策定します。

“未来に輝く南丹市をデザインする”

基本目標1 しごとをつくり、そこで働くひとを呼び込む

基本目標2 南丹市への新しい人の流れをつくる

基本目標3 結婚・妊娠・出産・子育てに希望を持てる地域をつくる

基本目標4 誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる

## 2. 戦略の期間

第2期創生戦略の期間は、2020（令和2）年度から2024（令和6）年度までの5年間とします。

## 3. 戦略の位置付け

（総合振興計画との関係）

第2次南丹市総合振興計画は、市の最上位計画として市政の方向性を定め、すべての政策・施策の指針となる計画であり、創生戦略は、総合振興計画の方向性と異なるものではなく、人口ビジョンで明らかにした市の人口減少の現状に基づき、人口問題を切り口に、「人口減少の克服」と人口減少を踏まえた地域社会の維持・活性化させる「南丹市の創生」の実現するための施策を戦略的に構築し、取り組みの充実、強化を図っていくものです。

創生戦略は、市の最上位計画である「南丹市総合振興計画」と密接に関係するものであり、「南丹市人口ビジョン」で示した目標人口を達成するために必要な基本目標（＝政策）を示すもので、定住促進を柱とした「しごと」づくりを中心に、人口減少克服と地域社会の維持・発展に向け、①しごとをつくり、そこで働くひとを呼び込む、②南丹市への新しい人の流れをつくる、③結婚・妊娠・出産・子育てに希望を持てる地域をつくる、④誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる、という4つの基本目標と、それを実現するための手段である施策を戦略的に構築し、地域創生の取り組みを推進していきます。

なお、戦略の成果を客観的に検証するために、4つの基本目標には KGI（重要目標達成指標）を、施策については KPI（重要業績評価指標）を設定します。

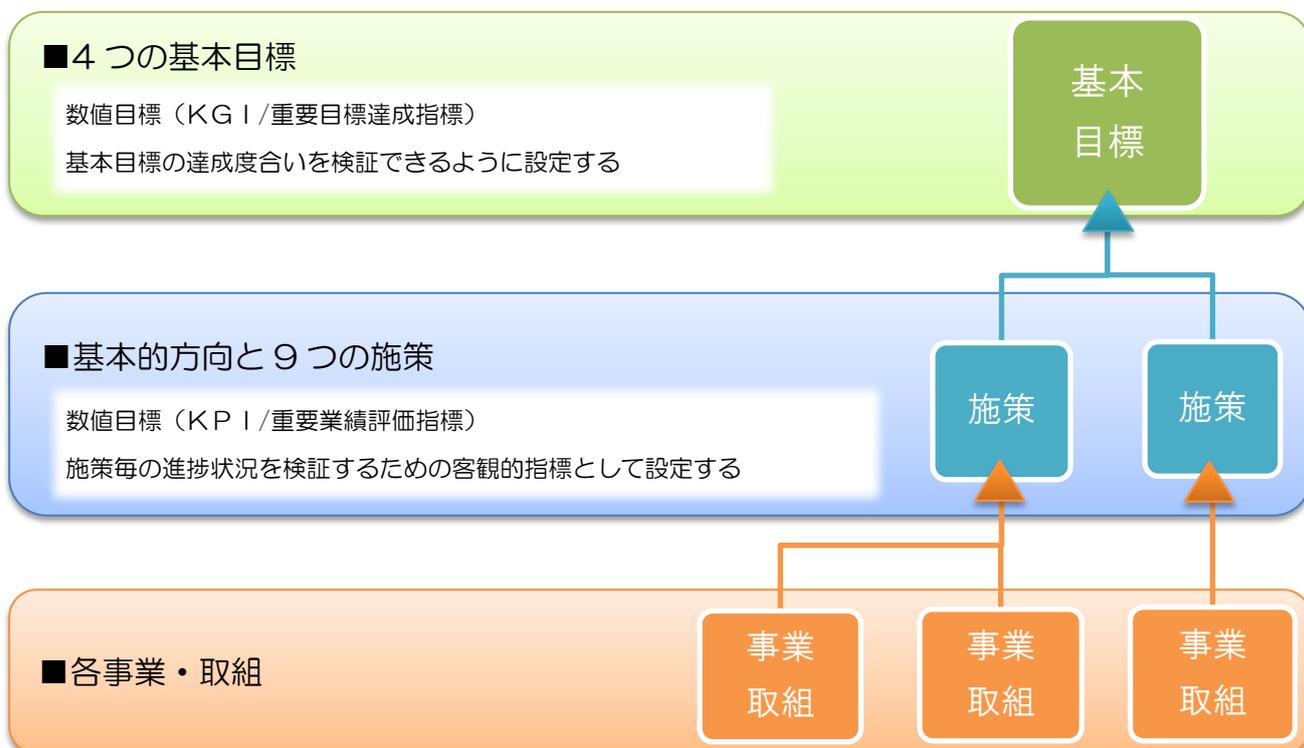
また、4つの基本目標の施策・事業の推進にあたっては、市民との協働が不可欠となります

（京都府・近隣市町との連携）

施策の実施においては、京都府の地域創生戦略、及びこれに基づき実施される事業と連携を図っていくとともに、近隣市町と共通する課題への対応について、連携を図ることにより効果的な取り組みに努めていきます。

## 4. 戦略の構造

4つの基本目標の下に次の階層を定め、戦略の達成度の検証のために、次の指標を設定する。



## 5. 戦略の評価・検証

創生戦略の推進をより実効性あるものとするために、毎年度、評価・検証を行い、必要に応じて戦略の見直しを行うものとします。

そのため、PDCAサイクルによる評価・検証のしくみを確立するとともに、評価・検証の客観性・妥当性を担保するため、外部有識者等の参画する評価・検証組織を設置するものとします。

なお、KGI および KPI についても、適切に施策の効果を反映できるものとなっているか、評価・検証し、必要に応じて見直しも検討します。



### <創生戦略におけるPDCAサイクル>

- ① 創生戦略の策定
- ② 施策・事業の着実な実施
- ③ 実施した施策・事業の効果を KPI (重要業績評価指標) 等により検証
- ④ 必要に応じた創生戦略の見直し

## 6. 市民ニーズの捕捉

市民から無作為に 2,500 人を抽出し、アンケート調査を実施。



調査実施中

# 基本目標 1

## しごとをつくり、そこで働くひとを呼び込む

### 〈 数値目標 〉

KGI (重要目標達成指標)	基準値 (2018年度)	目標 (2020~2024年度)
新規就業者数	0人	+****人

(算出基礎:策定期間における新規誘致企業の就業者数+起業数)

### 〈 基本的方向と施策 〉

#### (1) 南丹市の特色を活かしたしごとづくりと企業誘致

本市で盛んなものづくりの「しごと」、豊かな自然環境や地域資源を活かす「しごと」、都会以外で働く選択肢としての「しごと」、Society5.0(※)の実現に向けた未来技術を活用した先進的な「しごと」など、多様な「しごと」を創出します。

また、市内における就業の場を拡大するため、就業支援や人材育成に力を入れるとともに、不動産(土地、建物)ストックを活用した企業誘致を進めます。

KPI (重要業績評価指標)	基準値 (2018年度)	第2期目標 (2020~2024年度)	備考
企業誘致数	+4社/年	+***社	市調査
農業産出額	**円	+**円/年	農水省推計
サテライトオフィス相談数	0件/年	延べ**件	市事業実績
製造品出荷額等	**円	+**円/年	工業統計調査
製造業事業所数	**事業所	+**事業所	//

### 〈 想定される主な事業・取組 〉

- 地域資源を活用した創業者に対する支援
- 事業者の販路開拓支援
- 光ファイバー通信網や未利用不動産などを活用した企業誘致
- ICT技術など最新テクノロジーの導入
- 地域産品による南丹ブランドPR
- 商店街の活性化支援

- 小規模な事業者の経営安定化支援
- サテライトオフィス誘致

## （２）地域産業の担い手となるひと集めと市内就職・起業支援

都会以外で働く選択肢を求める多様な価値観を満たす働き方など、市の資源や環境を活かした多様な働き方へのチャレンジを支援します。

KPI (重要業績評価指標)	基準値 (2018年度)	第2期目標 (2020~2024年度)	備考
新規就農者数	**人	+**人	
製造業従業者数	**人	+**人	工業統計調査
農家民泊開業者数	15人	+**人	京都府調査
市民の市内就業率	**%	+**%	市民意識調査

### 〈 想定される主な事業・取組 〉

- 地域の伝統産業の後継者育成
- 観光による地域の雇用促進
- 事業所の雇用促進支援
- 農業や林業の担い手育成・支援
- ソーシャル・インパクト・ボンドなどを活用した起業支援
- 有害鳥獣の獣肉を活用できる人材の育成

## 基本目標 2

## 南丹市への新しい人の流れをつくる

### 〈 数値目標 〉

KGI (重要目標達成指標)	基準値 (2018 年度)	第 2 期目標 (2020~2024 年度)
転入者数	1,248 人	+***人
転出者数	1,291 人	▲***人

(出典: 住民基本台帳年報)

### 〈 基本的方向と施策 〉

#### 〈1〉 定住・移住促進に向けた取組

定住促進サポートセンターや地域おこし協力隊等を活用し、本市への移住促進に向けた情報発信を行うとともに、既存の居住者も含めた定住に繋がる取り組みを実施します。

併せて、今住んでいる人が住んでいて良かったと感じ、住み続けてもらえる取り組みを進めていきます。

KPI (重要業績評価指標)	基準値 (2018 年度)	第 2 期目標 (2020~2024 年度)	備考
空き家活用件数	28 件	延べ***件	市事業実績
移住相談件数	288 件	延べ***件	//
空き家バンク登録件数	***件	延べ***件	//
Iターン・Uターン向け 支援事業利用者数	***件	延べ***件	//

### 〈 想定される主な事業・取組 〉

- 空き家バンク活用
- 移住支援
- ガイドブックや WEB での地域情報発信
- 地域おこし協力隊の活動推進
- 定住促進サポートセンター運営
- 住宅整備に向けた区画整理
- 道路・上下水道などのインフラ整備

- 空き家の廃棄物処分助成
- 転出を抑制する取組
- 移住促進特別区域に人の流れを誘導する取組

## （２）ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興

固有の歴史文化や自然地形などの豊かな観光資源活かし、南丹市のファン（＝交流・関係人口）の獲得を図ります。

併せて、2020年東京オリンピックや2021年ワールドマスターズゲームズ関西が開催されるこの機会に、海外をターゲットに南丹市の魅力をアピールし、誘客や定住推進などに取り組みます。

KPI (重要業績評価指標)	基準値 (2018年度)	第2期目標 (2020～2024年度)	備考
観光宿泊者数	106,338人/年	+***人/年	京都府調査
観光入込客数	229万人/年	+***万人/年	//
外国人宿泊者数	5,409人/年	+***人/年	//
農家民泊宿泊者数	**人	+***人	
観光イベント来場者数	105,700人/年	+***人/年	市事業実績
市公式LINE登録者数	人	+***人/年	市調査

### 〈 想定される主な事業・取組 〉

- 観光交流施設の整備
- 観光ルートやアクセス体系の整備
- スポーツの国際的イベントに関連付けた外国人誘客
- スポーツコミッションの立ち上げ
- 農業体験ツーリズムの推進
- 南丹市に関する作品（映像、著作物など）を活用した地域活性化（聖地化）
- クラウドファンディングの活用による市の魅力PR
- シティプロモーションの推進
- 地域の観光・スポーツイベントの振興やイベント開催
- 海外向け観光プロモーションの推進
- 観光協会への運営補助
- 山陰本線への広告掲載・掲出
- 観光データ収集
- ふるさと納税（個人・企業）を活用した交流・関係人口の創出

## 基本目標 3

結婚・妊娠・出産・子育てに希望を持てる地域をつくる

### 〈 数値目標 〉

KGI (重要目標達成指標)	基準値 (2018年度)	第2期目標 (2020～2024年度)
婚姻数	98件	+**件/年
出生数	200人	+**人/年
子ども女性比(0～4歳人口 /15～49歳女性人口)	**%	+**%

(出典:住民基本台帳年報・戸籍事件表)

### 〈 基本的方向と施策 〉

#### 〈1〉結婚・妊娠・出産・子育てを後押しする支援

結婚～子育てまで各ライフステージでの負担感を軽減する施策を展開することで、新たな家庭をつくり、安心して子どもを産み育てられる環境の充実も図っていきます。

併せて、結婚・出産を機に離職する女性が再び活躍できる男女共同参画社会の実現にも取り組みます。

KPI (重要業績評価指標)	基準値 (2018年度)	第2期目標 (2020～2024年度)	備考
保育所定員数	**人	+**人	市事業実績
安心して妊娠・出産・子育て できるまちだと感じている市 民の割合	55.6%	+**%	市民意識調査
婚活事業によるカップ ル成立数	**人	延べ**人	市事業実績
多子世帯数(子育て手当第 3子以降支給対象世帯数)	211世帯	+**人	//
産前産後ケア支援実績	**件	延べ**件	//
不妊治療支援件数	**件	延べ**人	//

### 〈 想定される主な事業・取組 〉

- 民間保育所の開設

- 学童保育施設の新設
- 子育て家庭への経済的支援
- 子育てに関する情報発信
- 子育てに係る相談体制の充実
- 訪問事業・拠点事業による相談支援・孤立防止
- 保育所・幼稚園施設・備品の充実
- 通園・通学環境の整備
- 女性の就職・活動支援
- 婚活事業

## (2) 地域愛を育てる教育の推進

市内の市内高校・大学校をはじめとした教育的資源を積極的に活用しながら、地域の主体者として豊かな自然と文化の宝庫である「ふるさと南丹市」を愛し、市内就職に繋げるための意識付けを推進します。

KPI (重要業績評価指標)	基準値 (2018年度)	第2期目標 (2020～2024年度)	備考
市民の地域活動参加率	55.9%	+**%	市民意識調査
包括連携協定を結ぶ教育機関数	**校	+**校	市事業実績
大学等との連携事業数	17事業	**事業/年	//
子育て支援団体数	**団体	+**団体	//

### 〈 想定される主な事業・取組 〉

- 学校運営協議会の設置
- 保育所・幼稚園から中学校までの異校種間の連携・交流
- 教育環境を豊かにする学校設備や施設の整備
- 発達段階に応じた情報活用能力の育成
- 生涯学習関連施設の整備・充実
- 文化財や歴史的な景観の保存と活用
- 対外的にアピールできる珍しい景観の発見とPR
- 多くの高校・高等教育機関との連携・協力による人材育成
- マーケティングや商品開発研修を通じた人材育成
- 伝統行事や文化の継承支援
- 子ども議会の開催
- ふるさと南丹市への愛着を育てる取組

## 基本目標 4

## 誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる

### 〈 数値目標 〉

KGI (重要目標達成指標)	基準値 (2018年度)	第2期目標 (2020~2024年度)
南丹市が住みやすいと感じている市民の割合	63.3%	+***%
防災の面で安心して暮らせるまちだと感じている市民の割合	37.3%	+***%

(出典:市民意識調査)

### 〈 基本的方向と施策 〉

#### 〈1〉次代に繋ぐ誰もが住みやすい地域づくり

既にある施設や地域資源を有効活用することで、ハード整備の負担を減らし、人口減少に対応しつつ、市民満足度を向上させる取り組みを充実させていきます。

併せて、SDGsの理念に沿った共生社会を構築するため、高齢者や障がいのある方、外国人にも優しい制度・環境づくりを進めます。

KPI (重要業績評価指標)	基準値 (2018年度)	第2期目標 (2020~2024年度)	備考
公共施設の機能集約件数	**件	**件	市調査
高齢の方にとって安心して暮らせるまちであると思う市民の割合	37.0%	+***%	市民意識調査
障がいのある方にとって安心して暮らせるまちであると思う市民の割合	29.0%	+***%	//
未利用公共施設の活用件数	**件	**件	市調査

### 〈 想定される主な事業・取組 〉

- 施設・地域資源・人材など、「既にあるもの」の有効活用促進
- 廃校舎を活用した地域の拠点づくり
- 公共施設の再編による施設管理の効率化
- 計画的な補修・更新による施設の長寿命化
- 効率的な新庁舎・公民館の建替え

- 共生社会の推進と仕組みづくり
- 外国人向け案内表示の普及や通訳ツールの活用
- 外国人との交流事業
- 公営医療機関の設置
- 障がい者団体への助成
- 特別支援教育の推進
- 介護予防の取組

## (2) 住み続けたい安心・安全な地域づくり

年齢や障がいの有無などにかかわらず、市民の誰もが住み慣れた地域で、支え合って安心・安全に暮らせるように、共生社会の仕組みづくりに取り組むとともに、万一の災害に備えた体制の強化、道路などのインフラ整備と公共交通の充実など、誰もが安心して暮らせるまちをつくりま

KPI (重要業績評価指標)	基準値 (2018年度)	第2期目標 (2020~2024年度)	備考
自主防災組織数	25 組織	+*** 組織	市調査
地域で防災活動が活発に行われていると思う市民の割合	**%	+***%	市民意識調査
市バスの利用者数 ※小学生の通学分を除く	**人	+***人	市事業実績

### 〈 想定される主な事業・取組 〉

- インフラの整備・長寿命化
- 防災対策と体制の充実・強化
- JR 駅舎および駅前広場の整備
- 地域公共交通の充実
- 光ファイバー網や無線通信などの情報通信基盤の整備・充実

### (3) とともに歩む協働・連携の取り組み

近隣の市町がそれぞれの特性や強みを生かして連携・協力するとともに、府とも連携し、多様化する住民ニーズや広域化する行政課題に対応していきます。

併せて、多様化する地域課題の解決に向け、地域を牽引する人材の掘り起こしと育成にも取り組みながら、市民協働の力で地域コミュニティの衰退を防ぎます。

KPI (重要業績評価指標)	基準値 (2018年度)	第2期目標 (2020~2024年度)	数値根拠
広域観光事業実施数	20事業	＋***事業	//
地域リーダー養成数	9人	＋***人	//
地域活性化支援事業実施数	21事業	延べ***事業	//
市民提案型まちづくり活動 支援交付金事業実施数	**事業	延べ***事業	//

#### 〈 想定される主な事業・取組 〉

- 京都府との連携
- 近隣自治体との連携（ごみ処理施設の管理運営など）
- 市民提案型まちづくり活動支援交付金事業
- 地域リーダーの養成
- 自主振興組織の設立支援
- 森の京都ブランドPR
- 広域幹線道路や鉄道などの整備促進
- 広域連携した観光振興
- 上水道施設の広域運営
- 南丹市まちづくりデザインセンターの運営

#### 【参考】関係用語集

- KGI（ケージーアイ/Key Goal Indicator/重要目標達成指標）  
組織やプロジェクトが達成すべき目標を指し示す定量的な指標のこと。
- KPI（ケーピーアイ/Key Performance Indicator/重要業績評価指標）  
最終的な目標（KGI）を達成するための、過程を計測する中間指標のこと。

■SDGs（エスディージーズ/Sustainable Development Goals/持続可能な開発目標）

2015年9月の国連サミットで採択された、持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成された国際目標のこと。

■Society5.0（ソサエティ 5.0）

「狩猟社会」「農耕社会」「工業社会」「情報社会」に続く、人類史上5番目の新しい社会「超スマート社会」のこと。

■インフラ（インフラストラクチャー/infrastructure）

道路・鉄道・港湾・ダム・上下水道・通信施設などの産業の基盤となる公共施設のこと。

■移住促進特別区域

人口減少や少子化に伴う地域課題を解決するため、移住者の受け入れに積極的に取り組む地域として支援するべく、京都府が「京都府移住促進条例」に定めたもの。

■共生社会

誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会のこと。

■クラウドファンディング

不特定多数の人が通常インターネット経由で他の人々や組織に財源の提供や協力などを行うこと。

■シティプロモーション

交流・関係・定住人口増加のために、まちの魅力ある資源や充実した施策を市内外にアピールすること。

南丹市ではそのキャッチコピーを「Uターン Iターン なんたーん」と定め、ログマークや動画、テーマソングなどを作成している。

■スポーツコミッション

スポーツをまちづくりや地域活性化に活用するため、地方公共団体とスポーツ団体、観光産業などの民間企業が一体となって組織する団体のこと。

■ソーシャル・インパクト・ボンド（Social Impact Bond、SIB）

官民連携の仕組みの一つで、行政や民間事業者及び資金提供者等が連携して、社会問題の解決を目指す成果志向の取組のこと。

■不動産ストック

現状活用されていない空き家や空き店舗、老朽建物などの不動産物件のこと。